

甘えからの卒業

平成 28 年 2 月
立川女子高等学校
カウンセラーだより裏面

私たちは赤ちゃんの頃、周りの大人に甘えて生きてきました。金銭的にはもちろん、体力的にも心理的にも甘えていました。嫌だからと泣いても、疲れたと言って座り込んでも、誰かが何とかしてくれました。いつ、どこで寝ても許されていました。



しかし成長するに従って、少しずつ甘えることは許されなくなってきました。眠い時でも我慢して起きなければならなくなり、いたずらをしたら叱られるようになりました。お友達には優しくするように教えられ、勉強もしなければならなくなりました。高校生の皆さんは、経済面などでは、まだまだ甘えが許されていますが、もう多くの部分で甘えが許されなくなっています。

そもそも「甘え」とは、自分勝手に相手に迷惑をかけるものですし、自分の苦勞を人に負わせるものです。全てを自分以外の人のせいにし、人のせいにすることに全く罪悪感を感じません。



「甘え」は私たちが成長するために必要です。甘えることによって子どもたちは自分が大切にされていることを感じ、自分が大切な存在であることを学びます。そして、自分を信じる力、人にやさしくする力を育てていきます。しかし、成長したら「甘え」から卒業する必要があります。甘えを卒業出来ずにいると、やがて壁にぶつかります。甘えは周りの人を不幸にしますし、自分自身も本当の幸せを手にすることは出来ません。

人間は誰でも、誰かに甘えて生きるのが楽だと思いがちです。誰かが自分の代わりに考えてくれて、行動してくれて、責任をとってくれば、これ以上楽なことはないように感じます。しかし、それでは自分自身の力で何かを成し遂げることは出来ないのです、成功体験を味わうこともありませんし、達成感を感じることも出来ません。その結果、自分に自信がなくなり、大きな不安におびえて生きていくことになったりします。

甘えから卒業していない人は、同じような人と、べったりとした関係を作りたがりです。甘えを卒業していない人同士、しばらくの間はともうまく行きますが、そのうち、お互いを傷つけあうような関係になることが多いです。例え自分たち2人はうまく行っても、周囲の人たちを深く傷つけてしまうこともあります。

甘えを絶つためには、自分のことは自分で決める習慣を身につける必要があります。最初は大変かもしれませんが、努力してこれを続けていけば、次第に甘えから卒業出来ます。卒業出来れば、人生がどんどん楽しくなってきます。

人に甘え、人の苦勞で勝ち取った幸福は、一時的で不安定です。しかし、人に甘えずに、自分自身の苦勞で勝ち取った成功は、絶対になくなるらない、深く安定した幸福をもたらします。

